

## 月例英国経済概況(2004年4月)

現状:消費が堅調な推移を続け、製造業の景況も回復へ。  
 10-12月期の実質GDPの伸び率は、前期比0.9%(同年率3.7%)(図)。2000年1-3月期以来の高い伸び。産業別にみても、製造業が4四半期連続プラスの伸び(前期比)。  
 消費、投資など内需が好調を維持する一方、外需が成長率を押し下げ( )。  
 貿易赤字が拡大傾向( )。ただし、2月は対米輸出増を主因として、赤字縮小。  
 企業のマインドは改善基調。ただし、生産は軟化傾向( )。外需不振の影響。  
 消費は好調を持続( )。良好な雇用・所得環境( )や好調な住宅市場( )が背景に。  
 住宅価格の伸びが再び上昇傾向へ。個人向け貸し出しの増勢も衰えず( )。  
 今後:企業部門の回復と世界経済改善に伴う輸出増加などから、景気拡大が継続の公算。  
 良好な雇用環境が家計の消費を下支えするなか、企業の投資が回復へ。  
 世界経済改善に伴う輸出増加が、企業部門の回復傾向を後押し。景気は緩やかな拡大を持続との見方がコンセンサス( )。ただし、ポンド高の影響は懸念材料。  
 また、住宅バブル再燃の懸念と家計債務の増大が今後の景気の注目点に。

